

尾瀬における関東森林管理局の取組

計画保全部

計画課

尾瀬の国有林について

福島県、栃木県、群馬県及び新潟県の県境に位置する尾瀬国立公園三万七千二百haのうち約55%を関東森林管理局が管轄する国有林が占めています。

このうち、尾瀬地域の北側を、奥会津森林生態系保護地域と利根川源流部・燧ヶ岳周辺森林生態系保護地域に指定し、自然維持を重視した管理を行っています。



尾瀬の風景 (燧ヶ岳)

関東森林管理局の取組

尾瀬国立公園は、本州最大の山地湿原である尾瀬ヶ原と火山堰止湖の尾瀬沼のほか、二千m級の山々を有しています。

壮大な湿原景観、ミズバショウやニッコウキスゲなどの湿原植生、オゼソウやハクサンコザクラなどの高山植物が見られ、自然探勝や登山を中心に春から秋にかけて年間約30万人の利用者が訪れています。

そのような中、平成20年頃からニホンジカによる食害によりニッコウキスゲの開花数が大きく減少しました。



木道上のグレーチング設置

この重要な地元の観光資源であるニッコウキスゲの保全は喫緊の課題となり、関東森林



防鹿ネットによる水際対策

林管理局では、平成26年度から、積雪の少ない6月から10月頃にかけて湿原の外周

に金属製の防鹿柵を設置するとともに、観光で訪れる方が利用する木道上へのグレーチングの設置、さらに沼からの湿原へのシカの侵入を防ぐため、景観を損ねない範囲での防鹿ネットの設置に取り組んでいます。

平成29年には、一般ボランティアの方など地元有志の皆さんを含む約40名の参加を得て防鹿柵の設置を行い、本年10月には、企業等ボランティアの皆さんを含む約80名の参加を得ることができました。

尾瀬国立公園協議会への参画

尾瀬地域は、昭和9年に日光国立公園の一部として国立公園に指定され、平成19年、会津駒ヶ岳と帝釈山の周辺地域を追加し、単独の国立公園として新たに指定されました。

また、尾瀬が単独で国立公園として指定される前年の平成18年に、尾瀬に関わる地元関係者、学識経験者、自然保護関係者、関東森林管理局を



尾瀬サミットの様子

含む行政機関等からなる「尾瀬の保護と利用のあり方検討会（現在の尾瀬国立公園協議会）」において、「今後の尾瀬の基本方針や取り組むべき諸対策が「尾瀬ビジョン」として取りまとめられ、それから10年を経過した平成28年には、尾瀬ビジョンのレビューを行うとともに、「尾瀬国立公園協議会」においてビジョン改定の検討が開始され、今後10年、そしてさらに先の将来を見据えた尾



尾瀬サミット集合写真（最前列左から6番目より、笹川環境大臣事務官、新潟県 花角知事、群馬県 大澤知事、福島県 内堀知事）

瀬のあり方の指針となる「新・尾瀬ビジョン」が平成30年に取りまとめられました。

「新・尾瀬ビジョン」では、気候変動による自然生態系への影響や二ホンジカの生息数の急速な増加、外国人旅行者の増加等、尾瀬を取り巻く自然的・社会的環境の変化等を踏まえ、尾瀬の今後の方向性・必要な取組等がまとめられています。

尾瀬サミット2018

尾瀬サミットは、平成7年以降、尾瀬保護財団理事長である群馬県知事、同副理事長の福島県知事及び新潟県知事をはじめ、尾瀬の関係者が一堂に会し、尾瀬の自然保護や適正利用等に係る施策を一層推進するため、毎年開催されており、本年は9月10日（月）～11日（火）の2日間、福島県檜枝岐村の尾瀬沼湖畔にある尾瀬沼ヒュッテにおいて開催されました。



防鹿柵設置の様子

当日は、三県の知事をはじめ、関係各市町村長、学識経験者等のほか、笹川環境大臣事務官、林野庁からは関東森林管理局長が出席し、「滞在型・周遊型の促進」や「二ホンジカ対策」など、尾瀬をとりまく諸情勢について活発な意見交換が実施されました。

尾瀬の美しい自然の次代への継承

関東森林管理局では、前述のとおり尾瀬地域の北側を、奥会津森林生態系保護地域等に指定するとともに、尾瀬国立公園協議会をはじめとした各種検討会へも積極的に参画しています。

また、二ホンジカ対策については、一般ボランティアの方々との協力による防鹿柵の設置等により、現在ではシカの目撃数は減少し、ニッコウキスゲも回復傾向にあります。

関東森林管理局としては、尾瀬の美しい自然を次代にしっかりと引き継ぐべく、引き続き関係機関と連携した取組を進めてまいります。

今月の表紙 赤崩

（静岡県静岡市）

大井川の三大崩の一つで、静岡市葵区田代地内の畑畑第一ダム湛水敷の上流部の大井川左岸に位置する崩壊地で、面積は約45ha、幅は最大で約80m、平均傾斜は約35度、大井川との比高で約80m、地質は、四万十類帯の寸又層群の砂岩頁岩互層及び頁岩とされています。

静岡市の「オクシズ百選」のうちの「南アルプスジオサイト」として登録されています。

崩落活動が激しく、崩壊地と扇状地の間が狭隘な谷間となっており、立ち入ることが危険な箇所となっています。写真は、赤崩全体①、源頭部から下流②、中腹から源頭部③の写真です。



民国連携推進地区打合せについて

各署等民国連携担当者とは県及び市町職員との意見交換を実施し

森林整備部 技術普及課

関東森林管理局では、平成28年度より、市町村森林整備計画を樹立する市町村の中から「民国連携推進地区」を設定し、都県の森林総合監理士等と森林管理署等の森林技術指導官等が連携し、市町村への技術的支援等を実施しています。

これまで11市町で同地区を設定し、地域における重点課題の解決に向けた取組を行っています。今年度は、常陸太田市、大子町、日光市、佐渡市、浜松市、富士吉田市の6地区を設定し、各署等の森林技術指導官等が中心となり、取り組んでいます。

民国連携推進地区打合せの概要

平成30年9月13日に民国連携推進地区を設定した各地区の県の出先機関（茨城県・栃木県・静岡県）、市町（常陸太田市・大子町・日光市・

平成30年度民国連携推進地区について					H30.4.18現在
署等	計画区	県	市町村	連携相手	各地域の課題(主なもの)
茨城署	八潮・多賀	茨城県	常陸太田市	県北農林事務所	・小規模森林所有者の集約化と木材の安定供給及び民国連携した路網整備 ・シカ目撃による早期対策
			大子町		・民国連携システム販売による木材の安定供給 ・シカ目撃による早期対策
日光署	鬼怒川	栃木県	日光市	県西環境森林事務所	・皆伐の推進 ・効率的な作業システム ・獣害対策
下越署	佐渡	新潟県	佐渡市	佐渡地域振興局	・公有林(国有林・県有林・市有林)や私有林の森林情報 の共有化 ・木材の安定供給のための施策の集約化
天竜署	天竜	静岡県	浜松市	県西部農林事務所 天竜農林局	・主伐、再造林の促進に向けた低コスト化 ・獣害対策 ・B、C材の販路開拓
山梨所	山梨東部	山梨県	富士吉田市	富士・東部農林事務所	・獣害対策 ・主伐、再造林の促進に向けた低コスト化



各署等から取組状況報告

各署等から取組状況報告
年度「平成30」において
林管理局
加し、森
官等が参
技術指導
区の森林
方と各地
の職員の
濱松市)



県からの意見

県からの意見
とを確認
しました。
翌日には、
局・署の
担当者で
個別打ち
合わせを
行い、市
町村森林
整備計画

連携推進地区の打合せ会議を開催しました。

各署等からは、これまでの市町に
対する支援の取組内容や今後のスケ
ジュール、局への要望事項を報告し、
県や市町からは、「民有林における
主伐再造林の実施状況」、「民有林
集約化の取組を行い境界確定事業を
独自に進めている大子森林組合の事
例」などの情報提供をいただくこと
もに「森林共同施業団地内における
中間土場の無料利用化」、「国有林
の森林認証への加入」などの要望が
出され、出席者で意見交換を行いま
した。要望等の課題については、林
野庁本庁とも協議しつつ対応を検討
すること、今後とも民国で連携し、
市町への支援の取組を進めていくこ

作成への支援内容や民国連携事業の
進捗状況の確認、抱えている課題の
聞き取りなど、情報共有及び今後の
方針の確認を行いました。



市町からの意見

関東森林管理局においては、今回
の意見・要望等を踏まえ、これまで
市町村支援を行ってきた11市町の民
国連携推進地区と併せ、民有林への
支援の取組を局・署一体となって推
進し、森林の整備・保全、林業の低
コスト化等を着実に実践することに
より、地域林業の活性化に貢献して
参ります。
引き続き皆様方の民国連携の取組
に対するご理解ご協力をよろしくお
願いいたします。



高尾森林ふれあい推進センターでは、国民の皆様には森林や林業に対する理解を深め、森林に親しんでいただくため、高尾山の国有林と施設を活用して、様々なイベントを行っています。今回は夏から秋にかけて行った活動を紹介します。

【森林カレッジ】

7月7日に今年度第2回目の森林カレッジを実施しました。午前中は、東京農業大学教授の宮林茂幸先生による「森に学ぶ〜森づくり、ことづくり、人づくり」の講義で、「農林業を体験することで人間が自然の一員であることを学び、社会性を高く含む」ことや「農林業をきっかけとして地域



講義

社会の伝統を見直し、活力ある社会を取り戻すことが大切」といった内容で解説していた



下刈作業

刈り鎌を持つのは初めての体験とあって、緊張しながらのスタートとなりました。鎌の刃研ぎから始まり、現地に移動して、いよいよ作業です。まさに「本物」を体験しました。全員が無事に作業を終了して閉会式では、「未来の子どもたちに森林を残していくために何をすべきか考えさせられた」「短時間の作業だったが、林業の大変さを体験できた」といった感想をいただきました。

年4回のプログラムも2回目を終わり、あとは10月と1月に実施する予定です。

【山の日制定記念イベント】

平成28年8月11日から始まった「山の日」です。今年で3回目を迎え、今年も当センターでは、「山の日」を制定した記念イベントを一般の方々を対象に実施しました。

- ・8月6日〜12日開催「期間限定・クラフト体験！」

「夏休み特別企画クラフト体験教室」を開催しました。期間限定で小学生以下の児童を対象として、夏休み満喫中の子どもたちは、楽しそうにそれぞれ工夫して自分だけの作品を作り上げていきました。期間中の参加者は322名でした。

- ・8月11日開催「まるごと！高尾山GREEN CLEAN作戦」

森林インストラクター東京会と連携して、高尾山の歩道を歩きながら清



高尾山GLEEN CLEAN作戦

掃活動を行いました。参加者107名が4班に分かれ、登山道4つのコースから一斉にスタートし、山頂には予定どおり全員無事に到着し、昼食後に全員で記念写真を撮影しました。

- ・8月11日、12日開催「魚取りと植物・生物観察教室Ⅰ・Ⅱ」

NPO法人「森とでんえん倶楽部」と連携して、「夏休み高尾山自然体験教室」を実施しました。総勢105名が参加し、高尾山の素晴らしい環境の中で、植物観察や草笛体験、小川での魚取りなどを行いました。

【職場体験】

8月29日に江東区立深川第二中学校2年生2名、8月30日に江東区立深川第八中学校2年生2名、9月5日〜7日の3日間に八王子市立横山中学校2年生3名の生徒が職場体験にやってきました。下刈作業、間伐作業、炭焼施設の整備、風倒木処理の手伝い、森林観察方法を体験しました。この職場体験を通じて、仕事の大変さを感じた一方で、森林・林業の大切さ、自然環境維持の難しさや楽しさも感じてくれたようです。



職場体験：間伐作業

森林・林業の大切さ、自然環境維持の難しさや楽しさも感じてくれたようです。

木と暮しのふれあい展 東京事務所

10月13日(土)・14日(日)の両日、「第38回木と暮しのふれあい展」

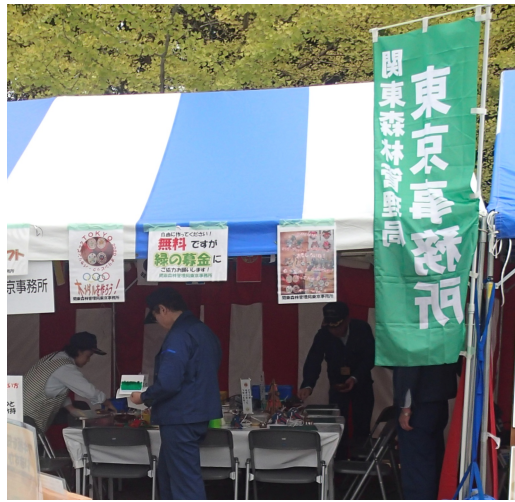
(主催・東京都・一般社団法人東京都木材団体連合会)が都立木場公園(江東区)で開催され、東京事務所も協賛のうえブースを出展し国有林のPRに努めました。

この催しは「森を育てたい。だから木を使おう。」をメインテーマに、都民に木とふれあえる機会を提供し、暮らしの中での木材利用を推進することを目的として毎年「木づかい推進月間」でもある10月に行われています。当日は、東京都の各木材関係



開会式(渡邊林野庁林政部長祝辞)

団体等が参加し、木工教室等の木とふれあう体験や木製品の展示販売、木造住宅相談、特産物の販売のほか、木挽きの実演、太鼓の演奏、木場の木遣り等が行われました。



東京事務所の出展ブースでは、職員手作りの「つき板」(薄い木の板)のコースターや国有林にある世界自然遺産が分かるワークブックを配布して、貴重な自然環境を有する国有林の情報発信に努めるとともに、もっくん(小枝のキーホルダー)や木の実はリースなどを作る子供達に大人気の「森林クラフト体験コーナー」や、緑の募金にご協力していただいた参加者には、簡単なゲームでプレゼントをゲットするコーナーなど、行列が出来るほどのたくさんの親子で賑わいました。

両日共に曇りがちながらすごしや



参加者の作品

すい天候で、来場者がどっと押し寄せ、2日間で約7万人にも達し盛況なイベントとなりました。

きのこ特集

肝臓は酸っぱい?!

カンソウタケ(食)(カンソウタケ科 カンソウタケ属)

6月中旬から9月中旬にシイヤスダシイの傷ついた根元付近に発生します。カサは5cmから30cmで、形はへら形から扇形、表面はザラザラして赤紅色です。

柄は短く上部はカサと同色で下部は白色です。ヒタは管孔状で始め赤色で後に濃赤褐色になります。

カンソウタケの和名の由来は、きのこが肝臓に似ている所から和名が命名されました。

肉は赤色で白い筋があり、味は酸味が強いです。



森づくり最前線

中越森林管理署 六日町森林事務所 森林官 新井 聡祐



私の勤務している六日町森林事

務所は、新潟県南部の南魚沼市に所在し、群馬県境をなす三国山脈沿いの国有林約一万八千七百haを管理しています。南魚沼市は、中央に魚野川が流れる魚沼盆地にあり、全国的にも高い評価を受けている魚沼産コシヒカリを中心とした農業を振興、冬季は市街地でも積雪が2mを超える全国有数の豪雪地帯で、スキー場を多数有しウィンタースポーツの盛んな市でもあります。その他、今年9月に南魚沼市を含む3県7市町村をつなぐ全長約307kmのスノーカントリールート(雪国観光圏域内を巡るロングトレイル)がオープンし、多くの人が訪れるのが期待されているところです。



南魚沼盆地と八海山

管内の国有林には、霊山と呼ばれる、「八海山」(標高・千七百七八m)と「巻機山」(標高・千九百六十七m)があり、山伏の神事として「火渡り」が毎年行われます。特に、巻機権現社境内で行う火渡り祭りは、里山伏による火渡り勤行が執り行われ、ボツというほら貝の音は、静かな山の自然のなかで心地よく響き、炎の舞い上がる様は幻想的でとても迫力があります。修験者による火渡りの後には、一般の方も参加する事ができますので、ぜひ体験してみてください。



巻機権現社大祭

この巻機山周辺の国有林は、中越森林管理署管内にある「利根川源流部・燧ヶ岳周辺森林生態系保護地域」と「佐武流山周辺森林生

態系保護地域」を結び「緑の回廊三国線」(延長約56km)が含まれており、原始的な天然林が多いこの地域一帯の貴重な自然環境を後世に残すため、森林の維持・保全に努めているところです。



巻機山

そのため、管内の人工林は全体の約4%と面積は少ないですが、平成27年から南魚沼市・南魚沼森林組合・株式会社戸田組と当署で「南魚沼市山口地域森林整備推進協定」を結び周辺民有林と協力し路網等の基盤整備や施業の集約化により、計画的・効率的な木材生産、森林整備が図れるよう取組を行っています。また、管内の森林施業にあたっては、イヌワシ等の希少猛禽類の生息環境の維持向上を図るため、「中越森林管理署におけるイヌワシ

シの保全を考慮した森林施業等の指針」に基づき、地域の状況に精通した有識者の意見を踏まえて実施しています。



共同施業団地の間伐状況

私は4月に赴任してきたばかりですが、現場の最前線にいる森林官として、先人により手入れされてきた森林を、より良く・身近に感じてもらえる森づくりを目指し、民有林関係者の皆さんと連携して、邁進してまいります。



ナラヒロタマルタマフシ(樟葉早丸玉附子)
クマバチの一種がナラ類の葉に産卵している虫こぶ。
夏〜秋にかけて赤く色づき、翌春に羽化した成虫が出る。

